



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

近畿地区国立大学法人等職員採用合同説明会での資料に関する説明です。

京都大学 大学院工学研究科 附属環境安全衛生センター

近畿地区国立大学法人等
職員採用合同説明会
2021年4月25日（日）

京都大学大学院工学研究科

京都大学工学研究科では様々な分野に関する研究が行われています。

- キャンパス
 - ・ 桂地区（京都市西京区） H15.10 開学
 - ・ 吉田地区（京都市左京区）
 - ・ 宇治地区（京都府宇治市）
 - ・ 大津地区（滋賀県大津市）
 - 組織
 - 専攻：17、附属センター：7、関連ユニット：3、事務部、技術部
- 多岐にわたる研究分野
(機械、電気、化学、建築、土木、物理、生物…)
- 構成員数※
 - ・ 教職員（常勤）：585名（桂地区：510名、吉田地区等：75名）
 - ・ 大学院生：2031名（桂地区：1908名、吉田地区等：123名）
- ※2020.5.1現在（2020年度工学研究科・工学部概要より）

京都大学の主要キャンパス

京都大学の主要なキャンパスとして、吉田、桂、宇治があります。
いずれのキャンパスにも工学研究科の実験・研究施設があります。



京都大学桂キャンパス



工学研究科の大部分は桂キャンパスにあります。

A クラスターでは化学系、電気系専攻、C クラスターでは地球系、物理系専攻が教育研究を行っています。

B クラスターは事務管理棟や福利棟などがあります。

環境安全衛生センターも桂キャンパスにあります。

充実が進む各種施設



保健診療所 桂分室
ヒーリングルーム
エクササイズルーム



船井交流センター
アスレチックルーム
トレーニングルーム



テニスコート



桂図書館



広場

桂キャンパス内には、福利厚生に関する様々な施設があります。

保健診療所桂分室では診療の他、アロマの香りでリラックスできるヒーリングルームがあります。

船井交流センターには、トレーニングジム、体育館があります。

環境安全衛生センター

- ・ 設置
 - ・ 平成16年4月（国立大学の独立行政法人化時）

- ・ スタッフ
 - ・ 教員（兼任）3名
 - ・ センター長（教授）
 - ・ 副センター長（准教授）
 - ・ 講師

- ・ 技術職員 3名

新規採用予定（1名）



- ・ ミッション

環境にやさしく安全衛生に配慮した教育・研究の場の構築をサポートする

環境安全衛生センターは平成 16 年 4 月に設置されました。

現在のスタッフは教員 3 名、技術職員 3 名です。

工学研究科において、環境にやさしく安全衛生に配慮して教育・研究の場を構築するためのサポートを行っています。

環境安全衛生センターの業務①

・安全衛生管理

・労働安全衛生法への対応

法令遵守のためのサポート

- ・安全衛生教育
- ・衛生管理者による安全巡視
- ・環境安全衛生委員会
- ・機器等の定期自主検査
- ・作業環境測定



学生も労働者とみなして同等のサポートを行う
教育研究活動の遂行をできるだけ妨げないようにする

環境安全衛生センターにおいて中心となる業務が安全衛生管理です。

労働安全衛生法や関連法令の遵守のためのサポートを行います。

教職員等の労働者のみでなく、学生に対しても同等のサポートを行っています。

環境安全衛生センターの業務②

・事故・ヒヤリハット報告への対応

- ・原因調査と対策の提案 → 再発防止

・化学物質及び高圧ガスの管理

- ・大学では少量多種の使用が特徴
 - ・毒物、劇物
 - ・危険物
 - ・高圧ガス

化学物質管理システムの活用

・廃棄物の管理

- ・実験廃棄物等の適正処理
- ・廃液回収（有機廃液・無機廃液）
- ・廃液分析
 - ・無機廃液：学内処理プラント対応
 - ・有機廃液：PRTR法対応

事故等の報告に対して、原因調査と対策の提案を行います。

大学においては、少量多種の化学物質や高圧ガスを使用しており、管理システムを活用して、適切な管理を行います。

実験で生じた廃棄物を適切に処理するよう支援します。

有機廃液や無機廃液は定期的に回収しています。

廃液に関して、学内処理の事前分析、PRTR対象物質の含有量測定を行います。

環境安全衛生センターの業務③

・環境管理

・省エネルギー

- ・電気使用量のモニタリングと改善策の立案

・排水

- ・実験排水のモニタリング



・RI施設の管理

- ・放射性同位元素を使用する施設の保守・安全管理

省エネルギー活動として、電気使用量をモニタリングし、改善策を提案します。

実験排水に関しては、pHの常時モニタリングとともに、定期的環境分析データにより環境基準を満たしているかをチェックします。

RI施設は放射性同位元素を使用する施設であり、その保守・安全管理を行っています。

担当いただく予定の業務①

- 安全巡視
 - 1～2回/週の実施
 - スケジュール調整
 - 専攻等の衛生管理者との協働（中心的役割）
- 化学物質管理
 - 毒物、劇物の区別管理
 - 危険物の管理
- 高圧ガス管理
 - 消費と貯蔵の区別管理
 - 図面チェック（行政への届出状況との照合）

必要資格の取得



巡視をベースとした各研究室の状況の把握
→ 問題点の抽出と解決に向けた施策

安全巡視は実験室を中心に環境安全に関する事項を確認します。

化学物質管理、高圧ガス管理のいずれも巡視を利用して状況を把握し、問題点の抽出と解決への施策へ繋がります。

衛生管理者や危険物取扱者などの業務上必要となる資格を取得していただきます。

担当いただく予定の業務②

- 廃液処理業務
 - 有機廃液の搬出立会い
 - 無機廃液のサンプル分析
- 安全機材の管理
 - 空気呼吸器、AED など
- 安全衛生教育、各種講習会



有機廃液は2回/週の回収、無機廃液は4～5回/年の処理です。

工学研究科で保有する安全機材を常時適切に使用できるよう管理します。

学生や職員に対する環境安全衛生教育、空気呼吸器や普通救命などの講習を実施します。

業務の特徴

- 他の技術職員と比較して、デスクワークが多いが、現場（研究室）へ出向く機会も多い
- 自分の専門分野を活かすことができ、専門分野以外の分野に触れることができる
 - 環境、安全管理はあらゆる分野に関係する
- 教員、事務との連携が不可欠
- 様々な問い合わせが多い



学生実験や分析業務を行う技術職員と比較して、事務作業の割合が多いです。

巡視等で見える様々な分野の実験室は、大変興味深いです。

問い合わせへの対応が、業務上必要となる知識・経験の蓄積につながります。

技術職員としてのスキルアップ

- 安全衛生に関する技術的知識の深化
 - 巡視を通じて学ぶ
 - 安全衛生教育、講習会の実施
- 業務を通じた法律に対する知識の蓄積
 - 各種資格の取得
 - 危険物取扱者、作業環境測定士、高圧ガス製造保安責任者、公害防止管理者 …
- 分析技術の習得
 - 蛍光エックス線分析装置、原子吸光分光光度計、ガスクロマトグラフ

巡視で実際の研究現場に触れることにより、安全衛生に関する技術的知識が深まります。その知識を活用し、教育や講習会の講師を担当します。

業務を通じて得た法律に関する知識は、各種資格取得に有利です。

各種機器を使用した分析技術を習得できます。

使用する分析機器



ガスクロマトグラフィー



原子吸光分光光度計



蛍光エックス線分析装置

ガスクロマトグラフィーは、有機廃液中のPRTR対象物質の含有量測定に使用します。

原子吸光分光光度計は、排水中の有害物質の濃度を測定します。

蛍光エックス線分析装置は、無機廃液の定性・定量分析に使用します。

求められる資質

- コミュニケーション能力と協調性
 - 各研究室の教員や関係事務とのコミュニケーションが非常に重要
- 化学（化学物質名など）に関する基本的な知識
 - 業務上必要となる資格の取得のため
 - 第一種衛生管理者 など
- 安全衛生に関する専門知識は必須ではない
 - 採用後に巡視等を通じて、教育・研究活動に応じた考え方を学んでいく
 - 自分の専門外の分野にも取り組む姿勢・意欲

教員や事務と連携した業務が多いので、コミュニケーション能力が重要です。

化学に関する基本的な知識は、業務上必要となる資格の取得に必要です。

安全衛生に関する知識は業務を通じて学んでいきます。

専門外の分野にも関わる場合があるので、意欲的に取り組む姿勢が求められます。

技術職員のメリット

- 様々な分野の技術職員との交流

- 工学研究科の技術職員数 38名

分からないことを
相談できる

- 充実した研修

- 大学全体、工学研究科独自

- 成果発表の機会

- 研究会等が全国各地で開催される

- 長期的な育成

- 自分のペースで技術・知識を習得できる

他部局にも、多くの教室系技術職員がおり、研修等を通じた交流があります。

組織での研修の他、個人が希望する研修も受講可能です。

全国の教室系技術職員が集う研究会等で他大学の技術職員と情報交換ができます。

長期的視点での育成により、じっくりと知識・技術を習得できます。

職場環境

- 立地

- 自然豊かなキャンパス
- 京都市内を一望できる



- オフィス

- 明るく広い

- ワーク・ライフ・バランス

- 年次休暇を取得しやすい
- 超過勤務が少ない
- 休日出勤はほとんどなし
- 趣味や自己啓発等、私生活も充実



桂キャンパスは、最寄りの鉄道駅からバスで10分から15分程度の場所にあります。

環境安全衛生センターの事務室は広く、業務に集中できる環境です。

ワーク・ライフ・バランスを重視しており、健全な生活を送ることができます。

まとめ

- 環境安全衛生センターは、環境にやさしく安全衛生に配慮した教育・研究の場の構築をサポートしている
- 環境安全衛生センターの業務は専門分野を活かすことができる
- 採用時における、安全衛生に関する専門知識は必須ではない
- 長期的な育成により、自分のペースで技術・知識を習得できる

環境安全衛生センターの業務は、自身の専門分野を活かすことができるとともに、それ以外の分野にも触れることができます。

じっくりと腰を据えて業務に取り組みたい方、ワーク・ライフ・バランスを充実させたい方は、ぜひ応募してみてください！

新たなステージを環境安全衛生センターで迎えてみませんか？